

# 目 次

◆ はじめに .....	1
◆ 目次 .....	2
◆ キーワード目次／状況・学校種目次 .....	6
◆ キーワードは「セルフエスティーム」 .....	8

## I 支援の実際 編

Q 1 トラブルを引き起こす子と周囲の子への対応は？.....	10
➡ まず、この子の思いを聴き、周囲の子へもそれを伝えます	
Q 2 目立たないけれど実は困っている子への支援は？.....	12
➡ 気になることを書き出したり、広く支援を求めたりします	
Q 3 大泣きしたり動けなくなったりする子への支援は？.....	14
➡ 心理学上の知見も利用し、チームで継続的な支援を行います	
Q 4 教室を出て別の場所に居るようになった子への支援は？.....	16
➡ 予定表を利用し、目当て・見通しのもてる学校生活づくりを図ります	
Q 5 本人や周囲の子どもたちが障害について理解するためには？.....	18
➡ 開かれた学級を前提とし、保護者との連携を丁寧にすすめます	
Q 6 一斉授業での、効果的な配慮は？.....	20
➡ 認知特性を基に、その子の特性に応じた授業改善をします	
◆ 「支援の実際」のまとめ .....	21

## II 校内体制 編

Q 7 分かりやすい授業にするための指導の工夫にはどんなものが？.....	22
➡ 同僚と協力して授業の見返しをし、できそうなところから始めます	
Q 8 チーム支援に、スムーズにつなげるには？.....	23
➡ 自律教育コーディネーターとの相談から始めます	

- Q 9 校内委員会をもつ時間がなかなかとれない時には？……………24  
➡ 会議は意思統一の場とし，情報交換は形にとらわれないものにします
- Q 10 部活動の中で困っていることが分かった時，担任はどうする？……………25  
➡ 担任と顧問が情報交換し，困っている場での支援を工夫します
- Q 11 不登校の子への段階的な支援とは？……………26  
➡ 安心できる居場所からスタートし，段階的に活動範囲を広げます
- Q 12 全教職員の共通理解に基づく緊急時の対応は？……………27  
➡ 全教職員が状況を理解し，緊急時の対応マニュアルを用意しておきます
- Q 13 大規模校で機能する校内体制の組織づくりは？……………28  
➡ 小委員会を複数設け，それぞれにサブコーディネーターを置きます
- Q 14 支援の緊急性を把握し，それに応じた対応をしていくためには？……………29  
➡ チェック表を作成して緊急度を判断する方法もあります
- Q 15 インシデントプロセス法による児童生徒理解とは？……………30  
➡ 誰もが参加でき，成就感がもてるよい方法があります
- 資料①：研修の流れ……………33
- Q 16 高等学校におけるLD・ADHD生等への対応は？……………34  
➡ 養護教諭等のコーディネートで支援チームを立ち上げます
- Q 17 校長が自律教育の推進において配慮していくことは？……………36  
➡ 慣例にとらわれない柔軟な対応をしている例があります
- Q 18 スクリーニングチェックリスト実施の目的と保護者の承諾の必要性は？……………38  
➡ 困っていることに気づき，保護者と共に支援するために使います
- ◆ 「校内体制」のまとめ……………39

### Ⅲ 校外との連携 編

- Q19 新小学1年生が、スムーズに学校生活を始めるには？……………40  
➡ 入学前から支援情報を交換し合い、それを入学後に活かします
- 資料②：小学校から保育園へのお願い……………41
- Q20 中学校生活に不安がある子にかかわる小学校と中学校との連携は？……………42  
➡ 得た情報から、本人のいちばん不安なことに対策を立てておきます
- Q21 保護者の同意に基づく医療機関と連携した支援は？……………44  
➡ 本人と保護者の安心感を最優先し、組織で動きます
- Q22 教職員だけでは支援が十分に行えない時には？……………45  
➡ 地域の専門家と共にとりあえず発想をもち、ケア会議から始めます
- 資料③：個別の指導計画……………46
- Q23 地域の子育て支援センターの主な機能とは？……………48  
➡ 学校ではできにくい支援の窓口となります
- Q24 外部の専門機関と連携を図るためには？……………50  
➡ ニーズに合った専門機関は、ネットワークづくりの中で出会えます
- Q25 子どもの支援に加えて保護者への支援も必要な場合は？……………52  
➡ 福祉機関と連携し、多くの窓口からの支援を依頼します
- Q26 保護者の信頼を得て連携して支援するには？……………54  
➡ まず保護者の思いに共感することから始めます
- Q27 集団生活への適応が難しい生徒の進路選択への支援は？……………55  
➡ 自分の特性を理解し、自己決定できるようにします
- Q28 盲・ろう・養護学校から幼稚園・保育所への支援は？……………58  
➡ 教育相談担当者が支援チームの一員になる場合もあります
- Q29 盲・ろう・養護学校が作成する関係諸機関との「連携マップ」とは？……………59  
➡ その地域における支援情報の提供が受けられます

Q30	盲・ろう・養護学校のセンター的機能とは？……………	60
	➡ 専門家が対応し，諸検査や研修会の講師も可能です	
Q31	自律教育相談の内容と申し込みの方法は？……………	62
	➡ 教育事務所や総合教育センターが対応します。電話で申し込みます	
◆	「校外との連携」のまとめ……………	63

#### IV 理解・啓発 編

Q32	地域の方々に障害に対する理解啓発を進めるためには？……………	64
	➡ 参加型の研修プログラムを利用して理解を深めた例があります	
Q33	障害や校内支援体制等に対するPTAの理解を得るには？……………	66
	➡ 機会を捉え，知識だけに終わらない啓発活動に心がけます	
Q34	LD・ADHD等の理解をすすめる具体的な方法は？……………	67
	➡ 疑似体験や読み合わせのための本の紹介も有効です	
◆	「理解・啓発」のまとめ……………	68

#### 資料 編

◆	自律教育コーディネーターのマナー……………	69
◆	スクリーニングチェックリスト（改訂版）……………	70